

栗原の稲作通信

令和元年第5号 令和元年7月11日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9437

□北部平坦・中生品種の出穂期は「8月2日頃」の見込みです（古川農試, 7月3日現在）
 □出穂の25～10日前に低温*が予想される場合は深水管理としましょう。

*日平均気温20℃以下 または 最低気温17℃以下

□草刈りは、7月中旬（出穂10日前）までに終わらしましょう。

□今後、葉色の低下が見込まれるので、品種や生育量に応じた追肥をしましょう。

■気象経過

- ・梅雨入り後、曇りや雨の日が多く、7月4日以降、気温が平年並～低く推移しています。
- ・今後も曇りや雨の日が多く、気温が平年並～低く推移する予報となっています。

最新の天気予報を確認し、適切な水管理等を行いましょう。

2週間気温予報(宮城県)URL：<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/?fuk=34>

■生育経過

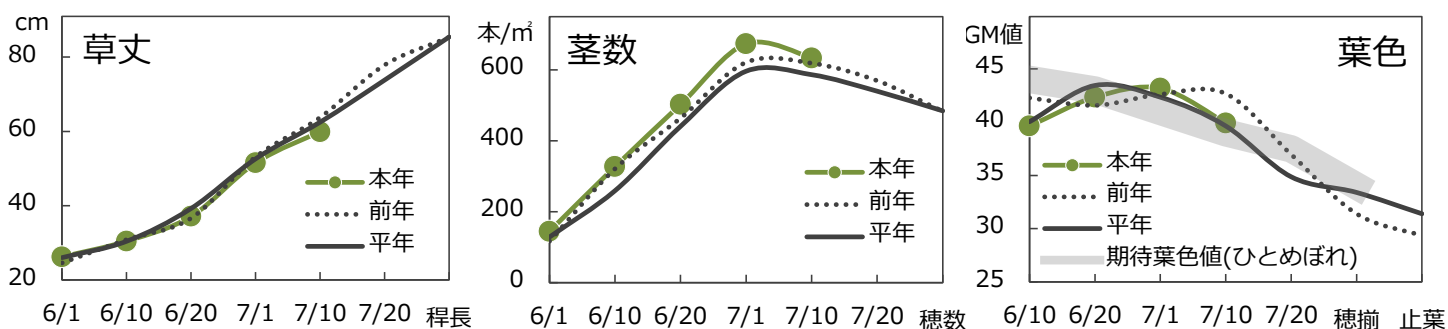
●生育調査ほ(移植)生育状況(7/10現在) ～ 多くのほ場で幼穂形成始期に達しています ～

- ・草丈：平年並～短い
- ・茎数：平年並～多い
- ・葉数：平年より少ない
- ・葉色：ひとめぼれ(若柳)を除き、前回調査時より低下している

生育調査ほ調査結果(7/10現在)

品種	地区	田植日 本年	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
			本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本年	前年差 (mm)	平年差 (mm)
ひとめぼれ	築館	5/4	63	94	95	625	101	114	11.2	-0.4	-0.3	38.0	-3.3	-0.2	13.2	4.4	0.4
ひとめぼれ	若柳	5/22	61	99	97	747	121	114	10.8	0.1	-0.2	45.7	2.1	5.1	0.3	-0.6	-1.4
ひとめぼれ	一迫	5/7	56	89	96	528	85	96	10.5	-0.9	-0.8	36.0	-7.1	-4.1	3.8	2.6	1.0
ひとめぼれ	平均	5/11	60	94	96	633	102	108	10.8	-0.4	-0.5	39.9	-2.8	0.3	5.8	2.2	0.0
つや姫	築館	5/23	54	81	89	525	116	98	10.1	-0.9	-0.8	44.4	-0.9	0.3	0.0	-	-
だて正夢	若柳	5/11	64	93	-	535	104	-	10.9	0.3	-	42.6	1.2	-	1.5	-0.7	-
萌えみのり	金成	5/10	61	102	101	500	91	98	10.5	-0.6	-0.6	45.3	-1.0	1.2	3.0	1.7	1.7

注) 平年値は過去5年平均値(「萌えみのり」のみ過去4年平均値)とする



ひとめぼれの生育の推移(ひとめぼれ生育調査ほ3か所の平均)

●直播展示ほの生育状況（7/10現在）

- ・前年より草丈が短く、茎数が多く、葉色がやや濃くなっています。

直播展示ほ調査結果（7/10現在） *べんもり湛水直播（点播）

品 種	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
	本年	前年差	本年	前年比(%)	本年	前年比(%)	本年	前年差	本年	前年差
萌えみのり	5月13日	8日遅	48	88	992	121	8.7	-0.5	43.9	2.2

■今後の管理

●生育ステージの把握 ~ ほ場毎に幼穂長を確認して生育ステージを把握しましょう ~

幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1~2mm	—	25日
減数分裂期	3~12cm	-10~0cm	10~15日

地帯別生育ステージの予測（7/3現在、古川農業試験場）

地帯区分	田植初期~終期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/2~5/19	7/2~7/11	7/12~7/21	7/31~8/7
西部丘陵	5/7~5/26	7/5~7/16	7/15~7/26	8/3~8/12

*「ひとめぼれ」「ササニシキ」を対象に、各生育ステージの幅を各地帯区分の田植え始期~終期で予測

●水管理 ~ 低温時は深水にしましょう ~

- ・基本的な水管理は、以下のとおりです。

中干し ▶ 間断かんがい(穂ばらみ期) ▶ 浅水(出穂・開花) ▶ 間断かんがい(開花期)

- ・中干しは、幼穂形成期までに終了しましょう。

* 中生品種は多くほほ場で幼穂形成期に達していると考えられます。

- ・倒伏の心配のある水田では、出穂前まで飽水管理（足跡の水がなくなったら極浅めに入水し、土を湿った状態に保つ）を行い、根の健全化を図りましょう。
- ・幼穂形成期~減数分裂期に低温*が予想される場合は、深水にして幼穂を保護しましょう。

*日平均気温が20℃以下、または日最低気温17℃以下が続く場合

●追肥 ~ 極端な葉色低下を避けるため追肥を行いましょう ~

- ・極端な葉色低下により玄米品質が低下するので、品種毎に適切な追肥を行いましょう。
- ・有機入り肥料を追肥に使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので早めに施用しましょう。
- ・一発型肥料を基肥に使用した場合でも、例年葉色が低下しているほ場では追肥を行いましょう。

追肥時期の生育量と追肥量の目安 *生育量が目安の範囲内~下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1~2mm）			減数分裂期（幼穂長3~12cm）		
	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470~530	38~40	1kg	450~500	35~37	1kg
ササニシキ	—	—	—	550~580	32~34	1~1.5kg
つや姫	550~580	35~37	2kg	—	—	—
まなむすめ	580~600	35~37	2kg	—	—	—

★だて正夢の追肥量（窒素分量/10a）

だて正夢の生育量の目安

- 基本は「減数分裂期2kg」
- 茎数が少ない場合は「幼穂形成期1kg+減数分裂期1kg」

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	64~70	76~82
茎数 (本/m ²)	390~460	380~420
葉色 (葉緑素計)	40~42	37~39

*「だて正夢」は「ひとめぼれ」等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にありますが、生育量が表の目安を超えている場合を除いて、追肥を行いません。

●病害虫防除

～葉いもち、イナゴ類の発生に注意しましょう～ ～草刈りを出穂10日前までに終わらしましょう～

*発生量および発生時期は、発生予報第6号(概要版)(宮城県病害虫防除所・7/5発行)に基づいています。

▶葉いもち …発生量「平年並」 発生時期「7月第3半旬(やや早い)」の予報

- アメダス資料による感染好適日の推定では、6月下旬～7月上旬に感染好適条件等が広域的に出ています。特に、萌えみのりなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょう。
- 葉いもちが確認された場合は防除しましょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。

▶稲こうじ病 …発生量「平年並」の予報

- 穂ばらみ期に低温で降雨日数が多いと発生しやすくなります。
- 銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。

▶紋枯病 …発生量「平年並」の予報

- 要防除水準を超えた場合は、穂ばらみ期から穂揃期に防除を行きましょう。
要防除水準：穂ばらみ期の発病株率 ひとめぼれ18% ササニシキ20%
- 高温多湿で発生しやすく、前年多発したほ場では、注意が必要です。

▶斑点米カメムシ類…発生量「平年並」 発生時期「7月第5半旬(やや遅い)」の予報

- 畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前(7月中旬)までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。
- 薬剤防除は「穂揃期+その7～10日後」の2回防除が基本です。イヌホタルイやノビエが発生している場合は、1回目の薬剤散布を出穂始期に早めましょう。

▶イナゴ類 …発生量「多」の予報

- コバネイナゴの発生が目立っています。齢が進んだ個体には薬剤の効果が低下するので、多発時は速やかに防除しましょう。